

## 特別調査「アベノミクス」がもたらす中小企業への影響について

問1. 「アベノミクス」において「第1の矢」とされる「大胆な金融緩和（円高是正・量的緩和等）」は、貴社の業況にどのような影響をあたえましたか。あてはまるものを次の1～4より1つお答えください。また、「第2の矢」とされる「機動的な財政政策（大規模な公共投資等）」は、貴社の業況にどのような影響をあたえましたか。あてはまるものを次の5～8より1つお答えください。

(単位：件・%)

	第1の矢・金融緩和				第2の矢・財政政策			
	1. 良い影響があった	2. どちらともいえない	3. 悪い影響があった	4. 影響はない	5. 良い影響があった	6. どちらともいえない	7. 悪い影響があった	8. 影響はない
合計(構成比)	5.2	29.9	5.2	59.7	6.3	32.2	2.3	59.2
合計件数	9	52	9	104	11	56	4	103
製造	3	15	4	17	4	15	1	19
建設	2	11	0	30	4	12	1	26
卸売	1	5	1	0	1	5	1	0
小売	1	16	1	36	0	16	0	38
サービス	2	5	3	21	2	8	1	20

\*アベノミクスで「第1の矢」とされる金融緩和の影響については、「良い影響があった」との回答と「悪い影響があった」との回答が5.2%で同率となった。また「第2の矢」とされる財政政策の影響については、6.3%の企業が「良い影響があった」、2.3%の企業が「悪い影響があった」と回答した。一方、「影響はない」の回答割合が、金融緩和については59.7%、財政政策については59.2%と高い割合を示した。

問2. 「アベノミクス」において「第3の矢」とされる「民間投資を喚起する成長戦略」について、どのような分野での成果を期待しますか。あてはまるものを次の1～10より最大3つまでお答えください。

(複数回答) (単位：件・%)

第3の矢・民間投資を喚起する成長戦略	1. 規制改革の推進	2. イノベーション・IT政策の立て直し	3. 経済連携の推進	4. 責任あるエネルギー政策の構築	5. 地球温暖化対策の見直し	6. 産業の新陳代謝の円滑化	7. 若者・女性の活躍推進	8. 攻めの農業政策の推進	9. 資源確保・インフラ輸出戦略の推進	10. クールジャパンの推進(「日本の魅力」の発信)
合計(構成比)	25.9	2.3	38.5	34.5	16.1	31.6	14.9	9.2	8.6	5.2
合計件数	45	4	67	60	28	55	26	16	15	9
製造	13	0	11	15	12	13	3	4	1	2
建設	11	2	14	14	4	15	9	6	3	2
卸売	3	0	2	1	0	2	0	1	2	0
小売	12	1	25	16	8	15	8	3	5	2
サービス	6	1	15	14	4	10	6	2	4	3

\*成長戦略に期待する政策としては、「経済連携の推進(38.5%)」と「責任あるエネルギー政策の構築(34.5%)」が上位を占め、「規制改革の推進(25.9%)」と「地球温暖化対策の見直し(16.1%)」がこれに続いた。

問3. 貴社では、「アベノミクス」の流れのなかで、賃金をひきあげましたか。あてはまるものを以下の1～3より1つお答えください。また、今後（1年以内）賃金を引き上げる予定はありますか。あてはまるものを以下の4～7より1つお答えください。

(複数回答) (単位: 件・%)

賃金の引上げ	現 在			今 後			
	1. 引き上げた	2. 据え置いている	3. 引き下げた	4. 引き上げる予定	5. 据え置く予定	6. 引き下げる予定	7. わからない
合計(構成比)	9.2	86.8	2.9	8.0	59.8	2.3	29.9
合計件数	16	151	5	14	104	4	52
製 造	4	35	0	3	19	1	16
建 設	5	37	1	5	26	1	11
卸 売	1	4	2	2	3	0	2
小 売	3	50	1	2	37	1	14
サービス	3	27	1	2	19	1	9

\*賃金の引上げについては、「引き上げた(9.2%)」と回答した割合が「引き下げた(2.9%)」と回答した割合を上回る結果となった。「据え置いている(86.8%)」と回答した企業が大半を占め、賃金の引上げは一部にとどまっている結果となった。

問4. 「アベノミクス」では女性の活躍推進が期待されていますが、貴社の従業者数に占める女性社員の割合はおよそどのくらいですか。あてはまるものを以下の1～5より1つお答えください。また、中期的に(3～5年後)女性社員の雇用について、どのように対応する予定ですか。あてはまるものを以下の6～9より1つお答えください。

(単位: 件・%)

女性社員の割合	割 合					雇 用			
	1. 10%未満	2. 10%以上～30%未満	3. 30%以上～50%未満	4. 50%以上～70%未満	5. 70%以上	6. 増やす予定	7. 変えない予定	8. 減らす予定	9. その他
合計(構成比)	36.8	21.3	10.9	17.8	13.2	4.6	90.8	2.9	1.7
合計件数	64	37	19	31	23	8	158	5	3
製 造	7	11	6	6	9	3	34	2	0
建 設	36	7	0	0	0	1	42	0	0
卸 売	2	3	2	0	0	2	5	0	0
小 売	10	8	8	18	10	2	50	1	1
サービス	9	8	3	7	4	0	27	2	2

\*女性社員の割合については、「10%未満」が36.8%で最も多く、続いて「10%以上～30%未満」が21.3%。全従業員の50%が女性という回答(「50%以上～70%未満」と「70%以上」の合算)も31%と相応の割合を占めた。中期的な(3年～5年)女性社員の雇用については「増やす予定(4.6%)」と回答した企業が「減らす予定(2.9%)」と回答した企業を1.7%上回ったものの、90.8%の企業が現状を「変えない予定」という結果となった。

問5. 貴社では、「アベノミクス」の流れの中で、設備投資を増やすとすれば、どのような内容が考えられますか。あてはまるものを以下の1~9より最大3つお答えください。

(複数回答) (単位: 件・%)

	1. 設備の更新、維持、補修	2. 省力化・合理化のための設備機械	3. 生産能力の拡大のための設備機械	4. 新製品・新事業発売	5. 研究開発・市場調査	6. ITの導入など情報化投資	7. 車両・事務用機器	8. 事業用の土地・建物	9. その他
合計(構成比)	59.8	23.6	17.8	9.8	8.6	8.0	33.9	8.0	2.9
合計件数	104	41	31	17	15	14	59	14	5
製造	27	15	13	7	3	0	6	3	2
建設	23	10	8	1	0	3	23	4	1
卸売	3	2	0	0	1	2	2	0	0
小売	29	9	3	8	8	5	18	5	1
サービス	22	5	7	1	3	4	10	2	1

\*質問については、「設備の更新、維持、補修」が59.8%と高い回答割合となり、次に「車両・事務用機器」33.9%、「省力化・合理化のための設備機械」23.6%、「生産能力の拡大のための設備機械」17.8%と続いた。

### ～調査員のコメントから～

- 秋サケの漁獲量の見通しは、昨年より期待できる模様。(製造業)
- 水タコ、柳タコは不漁が続き売上減少している。(製造業)
- 印刷業はパソコン等を利用する人が増え受注が減少している。(製造業)
- 公共工事が増加しており、売上は前年より増加している。(建設業)
- 公共工事関連の仕事で、多忙な状況となっており、人手は不足気味。(建設業)
- 地区内の小売業者への納入減少、コンビニ店に客足とられている。(卸売業)
- 不漁が続き、売上減少している。人員削減や流通経路の見直しを行った。(卸売業)
- 釣具関連のネット販売が好調に推移している。(小売業)
- 介護施設等への食材納入は堅調。個人客は減少傾向。(小売業)
- 原油価格が高騰しており、灯油の需要に影響が懸念される。(小売業)
- 高齢化により顧客の減少続いている。訪問カットも一つの対策か。(サービス業)
- 旅館業は、ネット等の宣伝で幅広く宿泊客の確保に努めている。(サービス業)